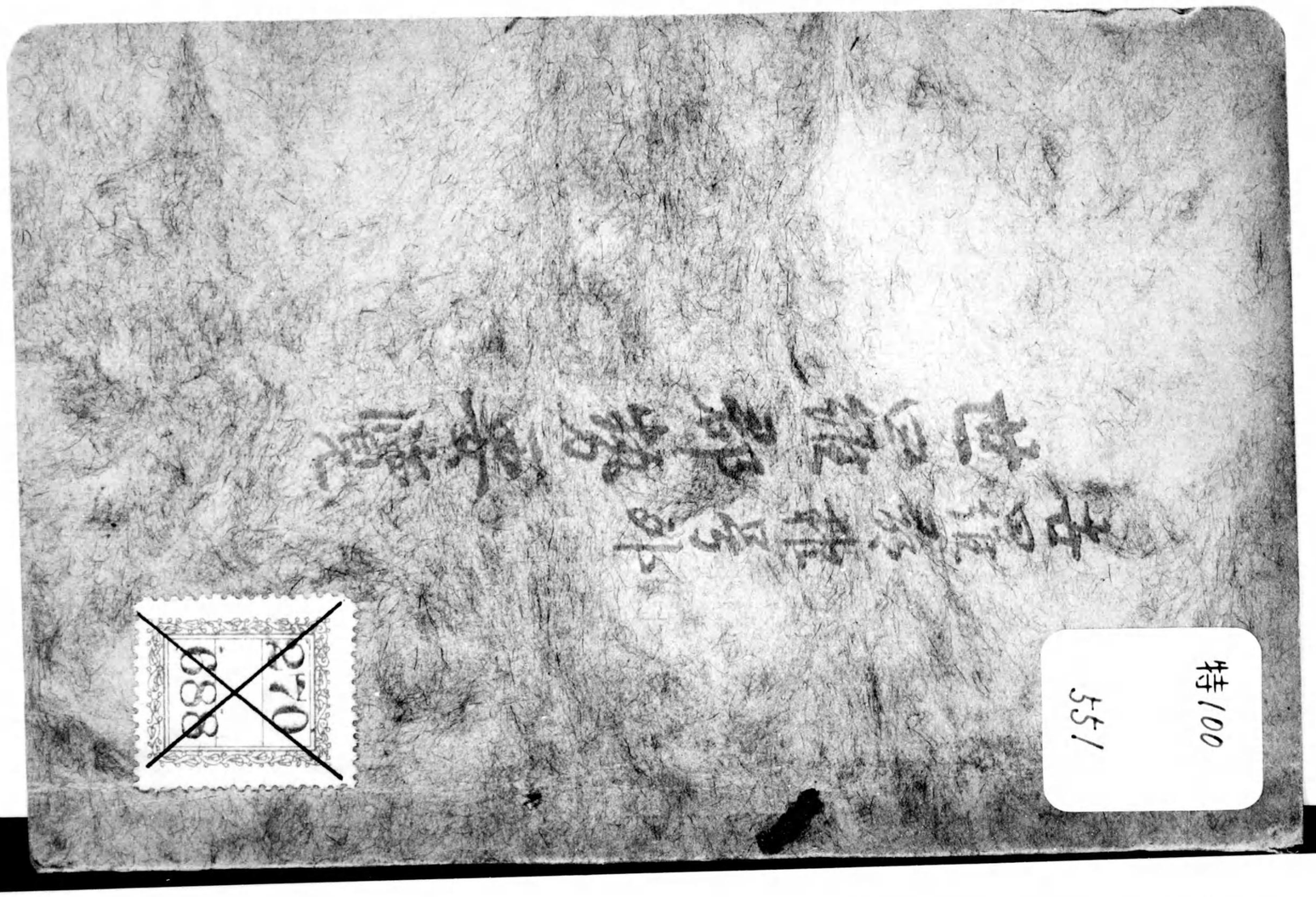
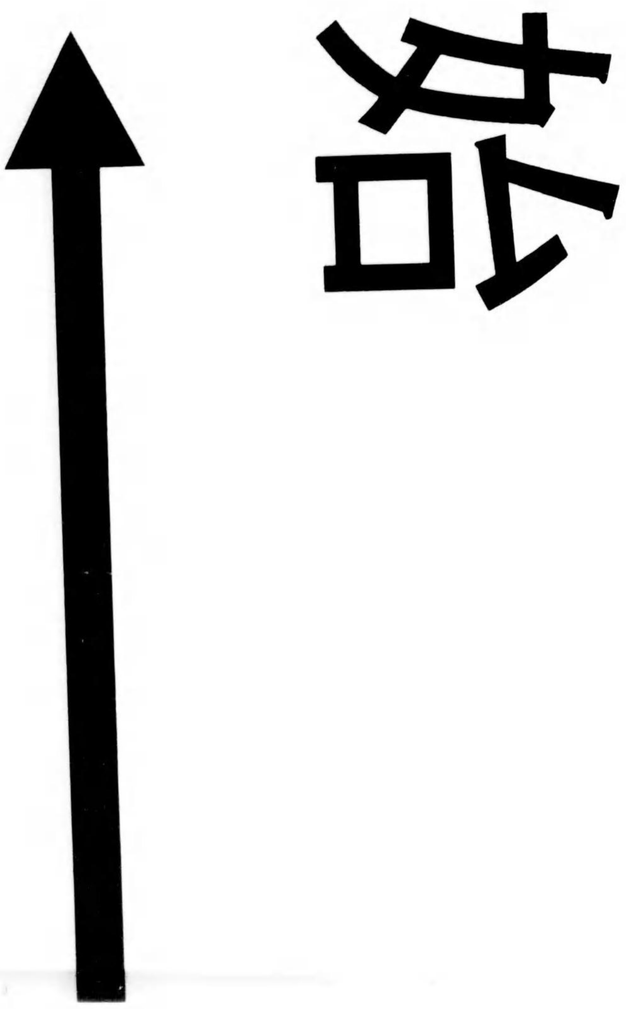


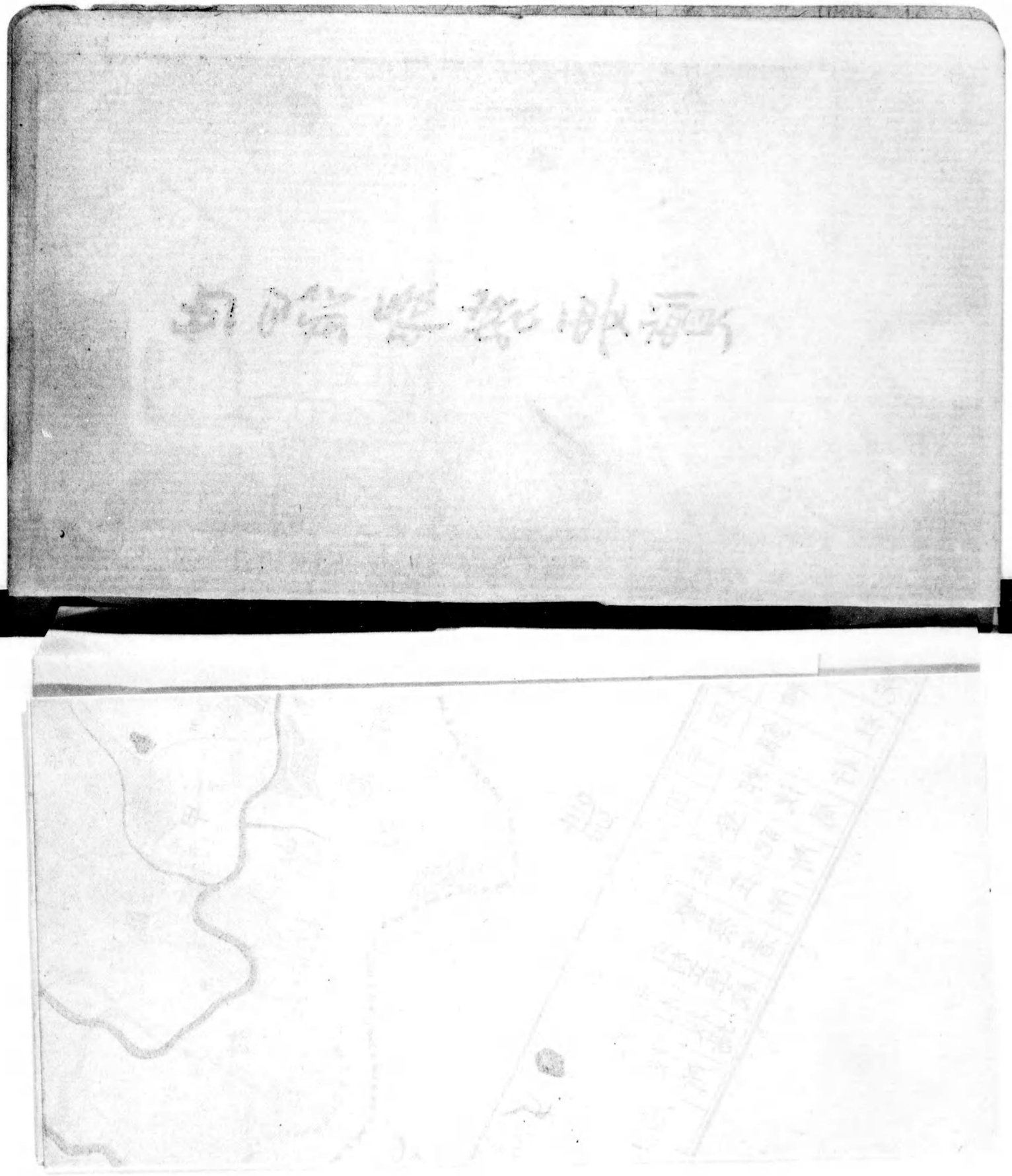

特100
551

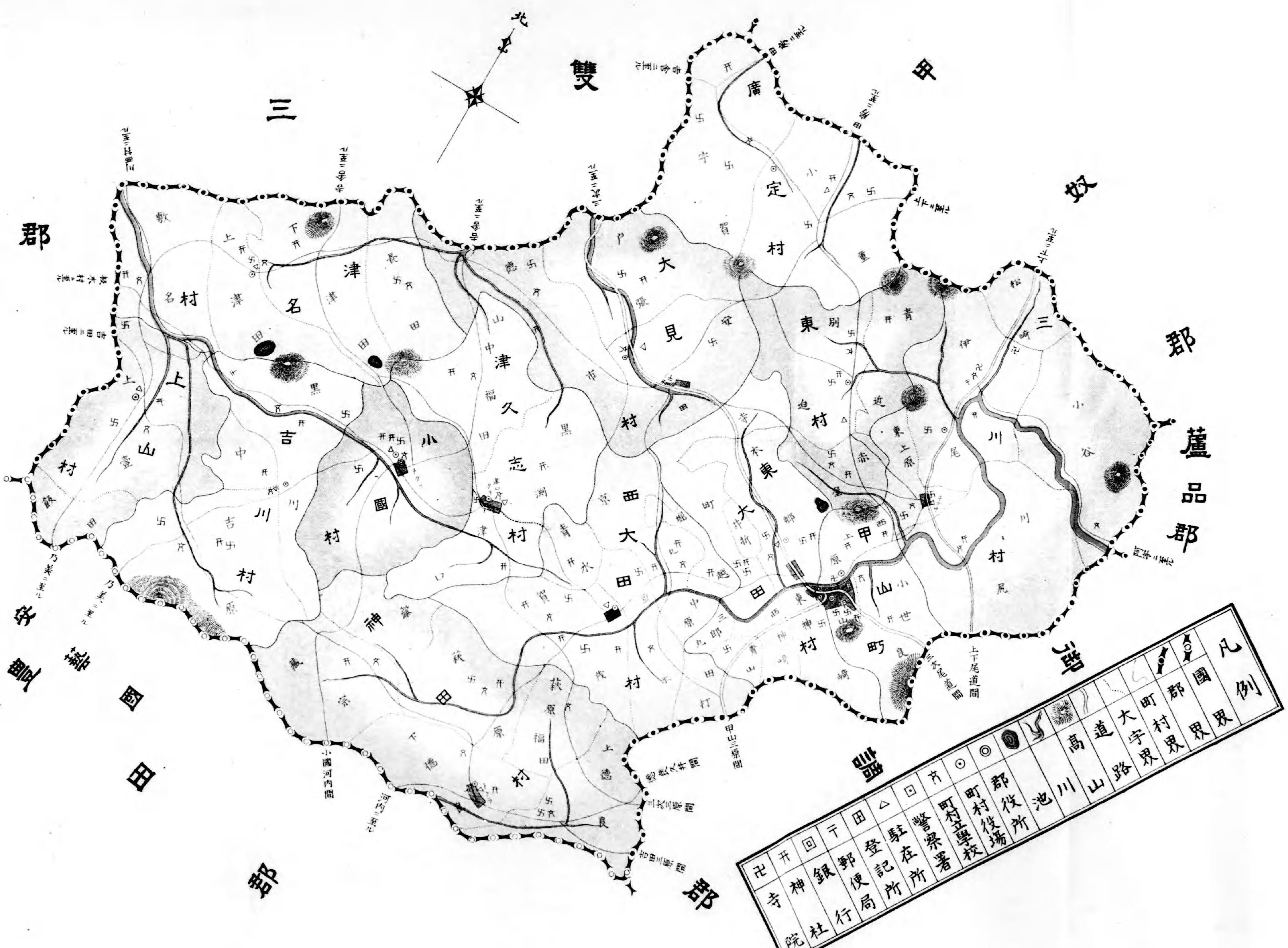


# 世羅郡勢要覽

2.2.1

本書は累年比較の方法により郡勢消長の觀察に資せんことを圖り努めて以前に溯りて材料を蒐輯したるも舊記錄の完膚尠く加之沿革並該付表は三十二年五月編纂の郡勢一班に據り單に爾後の異動を補足したるに過ぎざるを以て明治初年前後の職員氏名等を逸せざるは頗る遺憾とする所なり若しそれ措辭配列其當を得さるものあらは幸に雅誨の勞を吝む勿れ




北
雙三郡
甲奴郡
蘆品郡
御調郡
豐田郡
安藝國
凡例
國界
郡界
町村界
大字界
道路
高山
川
池
郡役所
町村役場
町村立學校
警察署
駐在所
登記所
郵便局
銀行
神社
寺院

特100
551

# 目次

一郡治沿革　一
行政區劃變革並郡區長交迭一覽　五
一郡勢概要　七
一現住戸數累年表　一二
一本籍及現住人口累年表　一三
一本籍人出生及死亡累年表　一四
一郡有財産一覽　一五
一郡費調　一六
一町村財産造成整理及管理の狀況　一八
町村財産一覽　一九
一町村税及縣税徵收の狀況　二〇
町村税徵收成績　二一
縣税徵收成績　二二
三ヶ年以上諸税皆納町村　二三

一矯風奬善に關する件　二三
一御登極五十年紀念事業調　二四
一神社の整理　二五
一勤儉貯蓄の狀況　二七
一恤救者の整理　二八
一學齡兒童就學の狀況　二九
一小學校々舍施設經營の狀況　三〇
世羅郡各小學校兒童調査　三二
世羅郡小學校調　三三
一小學校兒童貯金の狀況　三四
一郡立學校　三五
一青年會の現狀　三七
一米麥作奬勵の大要　三八
米作付反別及收穫調　三九
麥作付反別及收穫高　四〇
綠肥栽培調　四一
麥奴豫防成績　四二
米麥撰種　四二
改良堆肥舍設置數　四三
米穀檢査狀況　四四
一郡農場の經營　四五
種苗配付狀況　四六
一耕地整理の狀況　四六
一產業組合の狀況　四七
組合現在表　四七
組合成績　四八
一輸出眞田奬勵の狀況　四八
一畜產の狀況　四九
牛馬數表　五〇
種牡牛頭數表　五一
一蠶業の　勵の狀況　五一
一殖林奬勵に關する經營　五二

一商工業一班　五三
主要工業品及林産物産額調　五三
一交通機關の狀況　五四
一實業團体の狀況　五四
郡農會　五五
産牛組合　五七
地主會　五八
産業組合郡部會　五九
一郡内里程表　六一



# 世羅郡勢要覽

## 郡治沿革

一本郡は舊來五十ケ町村ありて之を五組（東組、西組、北組、南組、中組）に分劃し割庄屋五名にして各其組の政務を統轄す割庄屋の上に一名の町年寄を置き町に係る政務を掌る又各組に一名の社倉支配役ありて社倉に關する事務を管理し各町村に一名若は數名の庄屋ありて其町村の政務を統轄す其下組頭並に長百姓を置き之を補佐せしむ又社倉十人組頭取一名を置き特に社倉の事務を取扱はしむ而して上達或ひ訴訟等に係るものは藩より代官其他出張して之を聞き其爭論に係るものは之を裁判せり

一慶應二年より代官進藤八郎右衞門並に徒歩目付城小藤太及二三の調役之に從ひ本郡に勤番と寺町村若くは甲山町或は本郷村に假勤番所を置く明治元年西上原村に壯大なる勤番所を新築し之に移る後澁谷榮吉、佐藤守眞、寺田清十郎、前濱德太郎等進藤八郎右衞門に代り在勤す

一明治三年勤番所を郡府と改稱し代官を知事、調役等を筆生と改め又割庄屋を郡府詰とし茲に郡務統一の端緒を開く

一明治四年辛未七月十四日廢藩置縣の制となり知事筆生等を罷め假に割庄屋をして郡府の政務を處理せしめたり秋八月十二日後藤兵之助初めて縣より出張し舊藩制札を引揚ぐ此時甲山町附近の者數百名廢藩置縣の制を把憂し暴擧に及ひ遂に其出張官は同町小川爲三郎宅にて自殺するに至らしめたり又同月十四日同一の事情により郡民一時に蜂起し割庄屋の宅及郡府を燒毀し同十六日に至り鎭靜す（縣下各郡にも亦此蜂起あり）之を辛未の百姓騷動と名く

一同年十一月本郡を第百十區より第百十九區まで（其區は廣島に起る）十區に分ち庄屋の內十一名を撰拔し戸籍取調に從事せしむ之れ戸籍整理の創始なり又各戸に標札を掲けしめたり

一同年七月本郡を第十二大區となし其區用所を甲山町に置き區長に松村貞雄、戸長に波多野伊一郎を任し又副戸長七名を置き大區の行政事務を處理す而して各町村を十小區に分劃し每小區に用係（總員五十七名）を置く

一明治六年一月四日區長を廢し戸長一名とし坂村眞中之に任し又副戸長を七名とす而して組合方法を設け町村を大小に區分し十戸を以て小組と定め又一町村を大組とし大組總代一名若くは二名を置き公選せしむ之れ町村吏員公選の嚆矢なりとす

一同年十月戸長副戸長を廢し第十二大區（世羅）第十三大區（三谿）を行政區とし區長副區長を置き坂村眞中區長に川村爲藏、田中綏副區長に任し其區用所を津口村に移し會議所と改稱



す又用係を廢し小區に戸長二名を置く

一明治七年三月卅一日小區に戸長二名を置くの制を廢し戸長一名副戸長二名と改め又同年十一月學制の編製により大區に學區取締一名を置き船越元一之に任す又學區取締補助五名あり教育事務に從事せしむ

一明治九年二月學區取締補助を廢し戸長をして兼務せしむ又各町村の大組總代を廢し戸長附屬を置く

一明治十年十二月區務改正に依り名越嚴莊太區長に任せられ學區取締を兼ぬ又區書記ありて之を補佐す而して小區に戸長筆生を置き其執務所を何小區事務所と稱し後何號事務所と改稱す

一明治十一年七月郡區編制法の發布に依り同年十一月世羅三谿甲奴の三郡を區域とし其郡役所を津口村に置き松島德夫郡長に任せられ又數名の郡書記ありて分課庶務に從事す而して同十二年一月郡役所を甲山町に移す

一明治十二年二月町村を廿九區域とし戸長廿九名を公選せしむ又筆生各一名を置き戸長を補佐せしめたり

一同年七月八日郡長松島德夫病死し名越嚴莊太之に代る

一明治十三年四月區町村會法の發布により町村會議員を公選せしむ之れ代議政体の端緒なり

一明治十五年一月九日一歩村上野山村を合併シ上一村と改稱す
一同年三月八日行政區劃の改正に依り本郡を御調郡に併せ其郡役所を尾道町に置き多田寛郡長に任せらる
一明治十六年村落境界犬牙錯雜碁石の如き地を分合釐正す
一明治十七年三月郡長多田寛辭職し三次三谿郡長たりし中島干城其後に任せらる
一同年七月戸長所轄區域を十五に分劃し戸長を官選に改む
一明治十九年八月廿五日官制改正に依り小島範一郎郡長に任せらる
一明治二十一年四月町村制の發布に依り同廿二年三月元一町四十八ヶ村を合併し十三ヶ村に改め(舊町村名は大字とし保存す)同年四月一日より該制を實施し每村に村長助役收入役及書記を置く
一明治廿三年十一月廿五日郡長小島範一郎沼田高宮山縣郡長に轉任し賀茂郡長たりし中尾正名其後任となる
一明治廿九年十一月七日上田村を上山村と變更す
一明治三十年四月勅令第百五號に依り別に世羅郡長を置き其郡役所位置は甲山村と定め假に御調郡役所内にて事務を取扱ひ郡書記水谷貫一時郡長の代理を爲す同年五月十二日陸軍屬佐野潔本郡長に轉任す



一同年七月一日より郡役所を甲山村に移轉開廳す
一明治三十一年二月十日甲山村を甲山町と改稱す
一明治三十四年十一月佐野郡長退官同年同月廣島縣警視島田尙一其後任となる
一明治四十年七月島田郡長佐伯郡長に轉し同年同月廣島縣屬荒木喬其後任となる
一明治四十二年六月荒木郡長比婆郡長に轉任同年同月廣島縣屬古玉壽太郎其後任となる

## 行政區劃變革並郡區長交迭一覽

| 行政區劃存續年數 廢置年月 | 存續年數 | 行政廳名 | 郡區長氏名 | 任免年月 | 在職年數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自慶應二年<br>至明治二年四月 | | 勤番所 | 代官ヲ置ク | | |
| 自同 三年一月<br>至同 四年十二月 | | 府割庄屋ヲ置ク | | | |
| 自同 五年一月<br>至同 五年六月 | | 府戸長三名戸長副十名ヲ置ク | | | |
| 自同 五年七月<br>至同 六年一月 | | 區長 松村貞雄 | 五年七月任<br>六年一月二至 | 七ヶ月 | |
| 自同 六年一月<br>至同 六年十月 | | 第十二大區區用所 戸長 坂村眞中 外副戸長七名ヲ置ク | 六年一月任<br>六年十月二至 | 十ヶ月 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自同六年十月至同十一年七月 | 十四ヶ月 | 第十二大區（世羅）第十三大區（三谿）區用所 | 區長 | 坂村眞中 | 郡長代理 | 六年十月任十年十二月ニ至 | 四年二ヶ月 |
| | | | 區長 | 名越嚴莊太 | 郡書記 | 十年十二月任十一年七月ニ至 | 八ヶ月 |
| 自同十一年七月至同十五年三月 | 三年九ヶ月 | 世羅郡役所 | 郡長 | 松島德夫 | | 十一年七月任十二年七月死 | 一年一ヶ月 |
| | | | 郡長 | 名越嚴莊太 | | 十二年七月任十五年三月轉 | 二年九ヶ月 |
| 自同十五年三月至同十三年三月 | 十五年一ヶ月 | 世羅郡役所 | 郡長 | 多田寛 | | 十五年三月任十七年三月退 | 二年一ヶ月 |
| | | | 郡長 | 中島干城 | | 十七年三月任十九年八月ニ至 | 二年六ヶ月 |
| | | | 郡長 | 小島範一郎 | | 十九年八月任廿三年十一月轉 | 四年四ヶ月 |
| | | | 郡長 | 中尾正名 | | 廿三年十一月任三十年三月轉 | 六年五ヶ月 |
| | | | 郡長 | 水谷貞 | | 三十年四月任 | 一ヶ月 |



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 同三十年四月以降 | | 世羅郡役所 | 郡長 | 佐野緊 | 三十年五月任廿四年十一月退 |
| | | | 郡長 | 島田尚一 | 廿四年十一月任四十年七月轉 |
| | | | 郡長 | 荒木喬 | 四十年七月任四十二年六月轉 |
| | | | 郡長 | 古玉壽太郎 | 四十二年六月任 |

## 郡勢概況

本郡は備後國に屬し東西十一里南北四里面積二十四方里にして一町十二ヶ村を包擁す地勢概して高燥到る處山岳起伏し郡衙所在地に於て海一千尺以上を算す從て一望万頃の沃野に乏しく耕地は殆んど谿壑の間に介在するの觀を呈す

昨四十四年末に於ける現住戸數七千四百廿九同人口四万二百八にして一方里の人口千七百五十八人を算す而して本籍人口の增加に反し現住人口は四十年以降漸次減退の傾向を現はし四十三年より稍增加せるも尚本籍人口に對し現住人口三千百七十八人を減せり而かも此現象は

主として縣内三市及京阪地方若くは九州地方炭鑛出稼者の移住に起因せるもの丶如し出産率は最近三ケ年平均百分の三・五二死亡率は同しく百分の二・〇九を示せり

生業は殆んど農にして殊に米麥作により立てるの觀あり郡内の耕地田四千八百九十六町九反歩畑八百九町歩を有し農家の戸數七千戸にして全戸數の九割四分強を占め一戸平均田六反九畝歩畑一反一畝歩の耕地を有するの割合なるを以て上記現住人口の減退は動もすれは勞力の不足となり生産上多少の影響を免れさるもの丶如し、昨四十四年中に於ける農産物の生産総額百二十二万六千有余圓にして全生産額の七割八分弱を占め次て畜産物の貳万六千有余圓、工産物の拾九万七千圓弱(内酒類八万四千圓弱を含む)林産物の拾貳万四千余圓にして合計百五拾七万參千余圓に過きす而して之を郡内人口に配當すれは僅に參拾九圓余にして縣下一人平均の生産額四十六圓余に比し約七圓の差を呈せり副業は僅に産牛、經木眞田、建具類、薪炭等あるも産額何れも著しき進捗を見さるにより民度概して低く目下副業の一端として蠶業の振興を企畫し桑園設置及養蠶講習を開始し傍ら稚蠶共同飼育を奬勵せり

耕地整理は夙に之か奬勵に努め既成反別二百五十町歩餘工事若くは計畫中に屬するもの百六十六町二反歩余にして縣下斯業上に於ては長足の進歩を現示せり又殖林の經營は樹苗園及摸範林を設け去三十七年度より向ふ十ケ年間繼續事業として造林者に樹苗の無代下付を爲し既に昨年度迄に杉、扁柏、櫟の苗木五十万五千百三十五本を配付せり



普通農事の指導改善に付ては元農事試驗場の組織を繼承して郡農場を置き米麥蔬菜の摸範的試作、同種子の配與、土壤肥料の分析鑑定等をなし産米改良及本縣農事改良六必行の遂行を努め又一面郡農會を督勵して斯業の發展向上を助長遂行せしめつ丶あり而して産牛の改良は鋭意之か指導に努めたる結果近時多數の生産を見るに至りしも尚繁殖の餘地あるのみならす大に改良を要するものあるを以て年々奬勵金を下付し若くは種牡牛を購入貸與して産牛組合の事業助長に努め以て改良繁殖を圖りつ丶あり而して目下貸與中の種牡牛八頭なり

以上の事業に就ては郡費を以て四名の專務技術員を置き夫々指導提撕に從事せしめつ丶あり其他産業組合の設立及活用に付ては誘導の結果明治四十四年末現在二十五組合(組合員三千百四十七人拂込濟出資總額壹万五千參百七拾九圓余貯金六万七千九百七圓余貸付高四万七千貳百四拾貳圓余)の組織あり爾來二個の組織設立を見るに至り今や其區域は殆んと全部(僅かに西大田村の内中原堀越京丸の三大字を除くのみ)に渉り組合員出資金貯金等順調を以て增加し組合員の如き郡内現住者の過半を占め漸次購買事業を擴張する等各活動して農村の經濟及金融上に多大の利便を獲つ丶あり

義務教育の普及並之に伴ふ施設經營に關しては多年奬勵の結果學齡兒童就學歩合百人中九九・七八に及ひ出席歩合亦九三・〇六を示し漸次良好の成績を示しつ丶あり又義務教育年限延長に伴ひ小學校の增設擴張を要し其當時廢置分合に付稍紛議を釀したる町村ありしも目下

殆んど設備完整し尋常十二尋常高等併置十三高等二合計二十七及分教場五を有せり又地方女子の爲め郡立女學校を設置し普通科の外農事、手藝等地方に適切なる教育を施し目下六十三名の生徒を有す

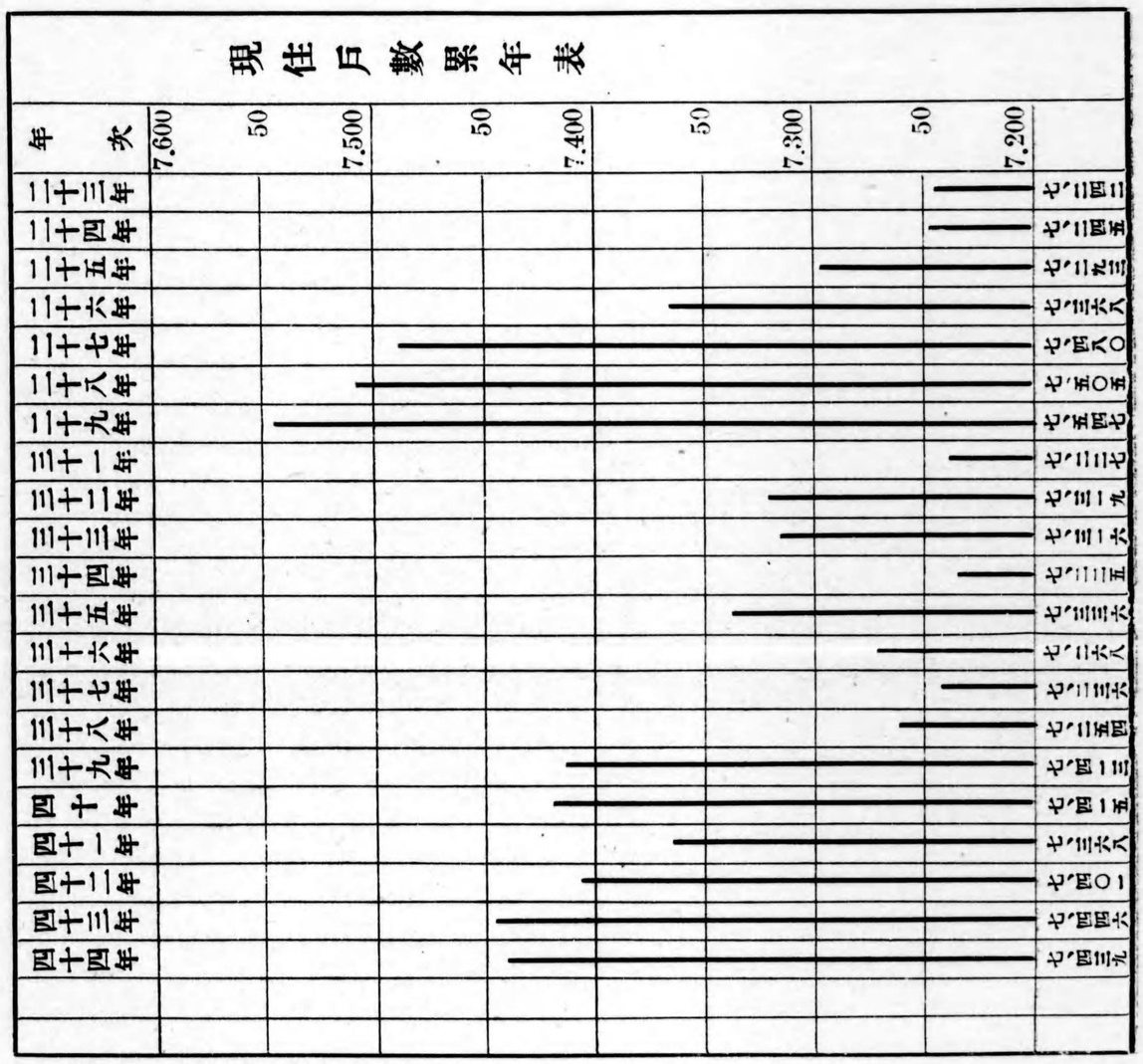
青年會の指導誘掖に關しては四十一年初めて統一的に組織し町村支部十三、事業區三十九にして巡回文庫、共同貯金、夜學會、果樹蔬菜の栽培、採種田、道標、各種生產物品評會の開設、公共事業の勞役提供、高齡者慰籍等をなし稍活動せるも創立日尙淺く目下之が勸奬提撕に努めつゝあり

町村自治の發達は年所を經るに從ひ漸次面目を革め政爭の弊昔日の如く激甚ならず民情概して平靜の觀を呈するも未た理想の妙境に達せざるは遺憾とする所なり而して本郡は曩に公吏の檢舉事件あり爲に一時人心の動搖を來し町村當事者の如きも徒らに危惧の念を驅られ或は消極的方針に流れたるやの感ありしも今や民心平穩に歸し却て周到なる注意及警戒を加へ熱誠眞摯事に當るを以て両者間の融和を來し各般の事務亦漸く整善向上の跡を見るに至れるは頗る慶ふへきの現象なりとす殊に吉川村の如き曩年村是を確立して熱心其遂行に努め漸次歩武を進めつゝあるか如き其他津久志村小國村の事務及納稅整善、東村の事務整理、廣定村の納稅成績に於ける何れも將來囑目すへきものなりとす獨り三川村、津名村に於ける村稅滯納の惡弊は多年の馴致により容易に改善を見さるは甚た遺憾とする所なれとも近時努力の結果



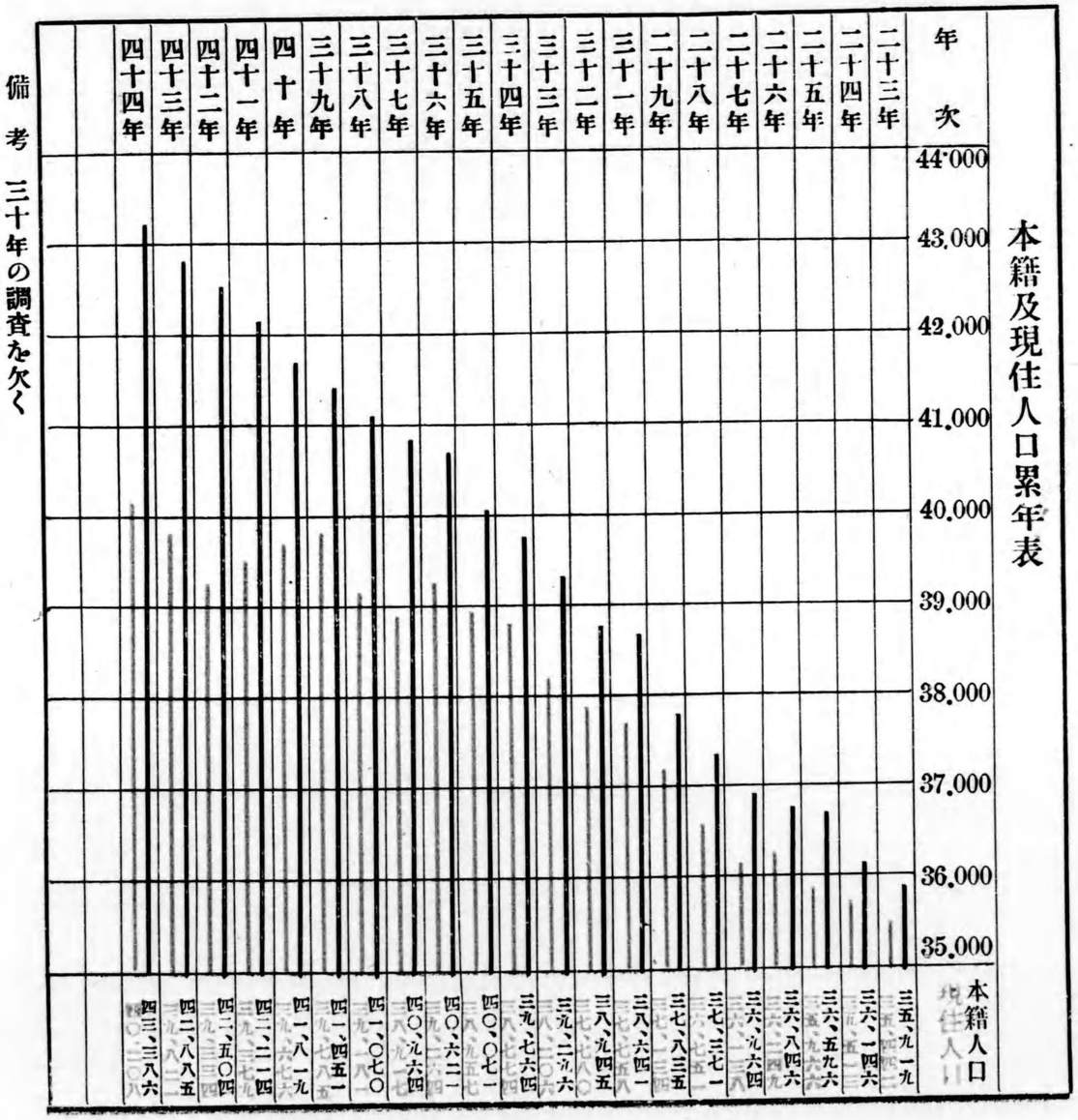
著しく進境を見しは當局者の勞を多しとせさるへからす

而して　戊申詔書の煥發は深く一般に感動を與へ勤勞の美風を喚起すると共に各種事業の振興を促し或は貯金組合の增加、斯民會の組織、青年會の統一活動、產業組合の設立等となり或は御發極五十年紀念事業の設定其他町村財產の增殖、殖林經營等となり地方事業の改善發達、世道人心の向上刷新等に著しき効果を見るに至れり如上の外治績の詳細に至りては以下各項を於て縷述す



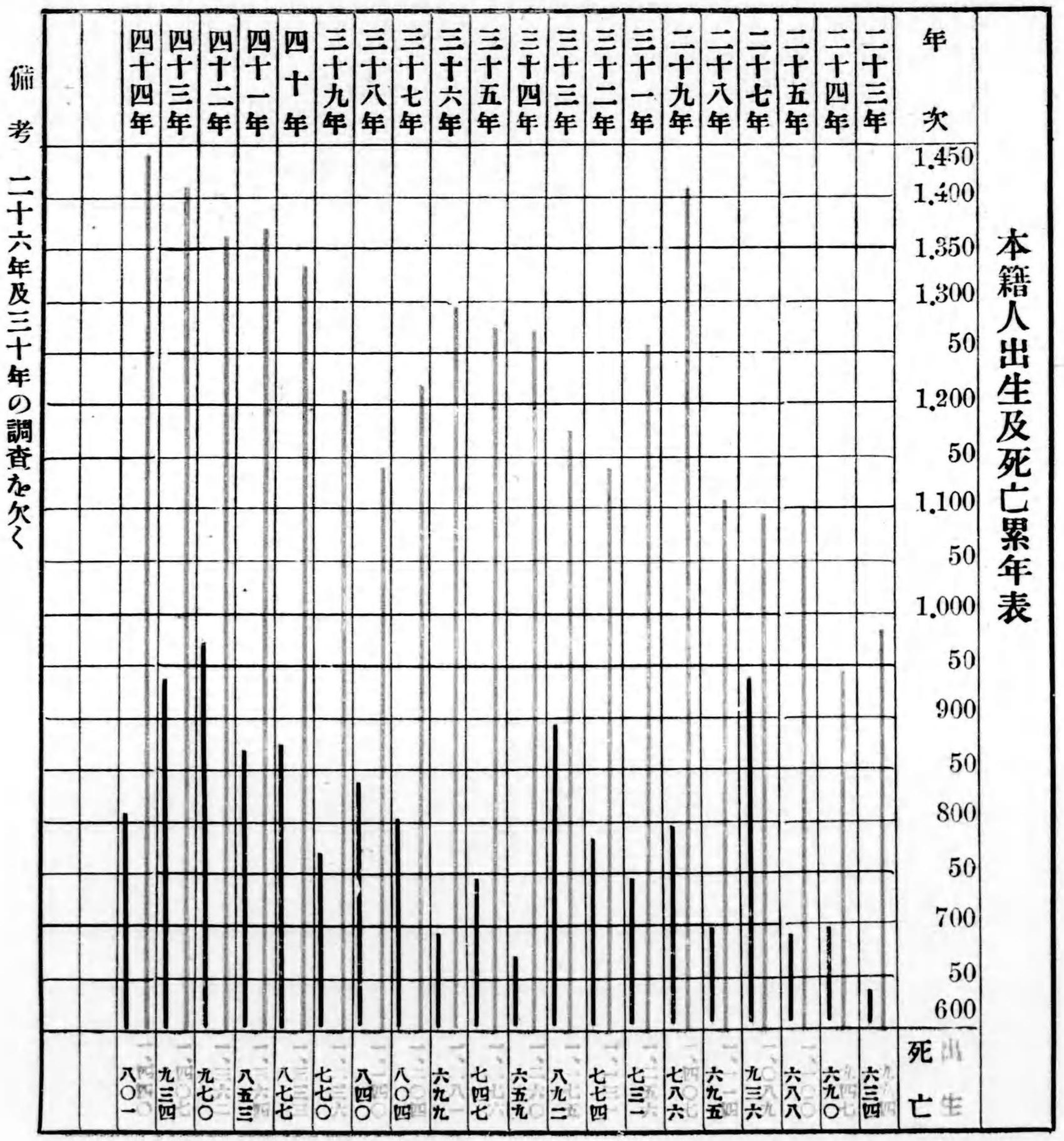

備考　三十年の調査を欠く

# 本籍及現住人口累年表




備考　三十年の調査を欠く

# 本籍人出生及死亡累年表

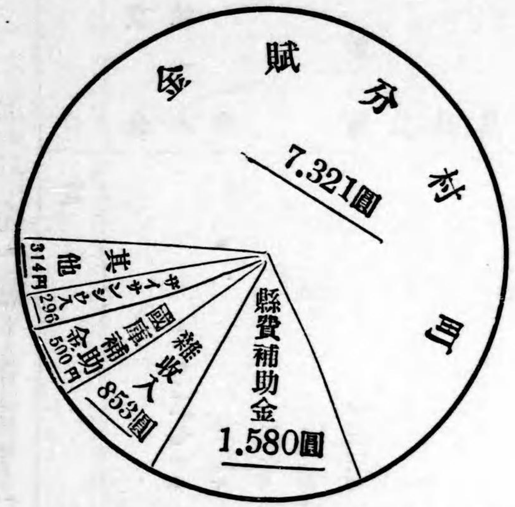



備考　二十六年及三十年の調査を欠く

# 郡有財産一覧（四十四年十二月末）

| 品目 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 積立金 | | 二、四六九、七四七円 |
| 模範林立木 | 八七、三七一本 | 一、六〇四、五四三 |
| 建物 | 三三坪 | 一八〇、〇〇〇 |
| 仝 | 二一坪 二五 | 六五四、〇〇〇 |
| 仝 | 六二坪 五〇 | 一、三六六、二六〇 |
| 仝 | 一三三坪 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 上敷地 | | 三七三、二九一 |
| 雑具 | | 八一一、一九三 |
| 校具 | | 一四三、二〇〇 |
| 農具 | | 一九七、三六〇 |
| 書籍 | | 四、六三〇 |
| 眞田器具 | | 三二三、〇九〇 |
| 土壌肥料分析器具 | | 三四二、九五〇 |
| 耕地整理器具 | | |

## 明治四十五年度歳入區分表



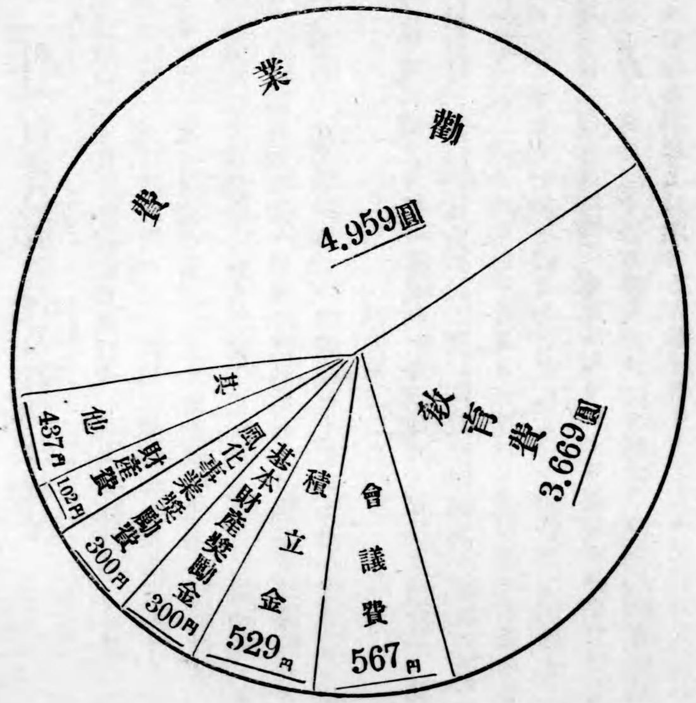

| 郡費調 | 八頭 |
|---|---|
| 種牡牛 | 一、一一五、〇〇〇 |
| 合計 | 一〇、五八五、二六四 |

## 郡費累年一覽

| 年次 | 歳出總額 | 縣税壹圓ニ付 |
|---|---|---|
| 三五 | 一、六四〇、〇〇〇 | 六、四四、〇〇〇 |
| 三六 | 一、七九七、二四二 | 九、二六、〇〇〇 |
| 三七 | 二、一九九、〇二〇 | 三、五四、〇〇〇 |
| 三八 | 二、三一一、六六四 | 三、四五、〇〇〇 |
| 三九 | 二、八一一、六六〇 | 三、六四、〇〇〇 |
| 四〇 | 二、七六六、四六六 | 四、三九、〇〇〇 |
| 四一 | 二、八七八、一二一 | 四、二五、〇〇〇 |
| 四二 | 二、七八五、五三九 | 四、六二、〇〇〇 |
| 四三 | 二、八四五、三三四 | 四、六三、〇〇〇 |
| 四四 | 二、八四八、一三一 | 四、六四、〇〇〇 |
| 四五 | 二、七八八、〇一四 | 四、六三、〇〇〇 |



## 同上歳出區分表



# 町村財産造成整理及管理の狀況

町村基本財産の造成は從來町村の蓄積條例區々に渉り目案書の如き更に設定を見す從て毎年度に於ける造成高も亦一定する所なかりしか爾來奬勵の結果去る四十一度より目案書に據り向ふ七十ヶ年間毎年度一定の金額を蓄積し又は財産林の造成を遂行するの條例に改め且つ同年度以降毎年度郡費を以て奬勵金を交付し以て之か助長遂行に努めつゝあり而して學校基本財産の造成に付ても鋭意督勵を加へ從來の規約的若くは部落的に蓄積せる舊慣を打破するの方針を以て條例を發行し一町村一團の下に造成せしむる方針を採り目下條例制定方督勵中なり

區及部落有財産の整理に關しては年來其統一を督勵せし結果吉川村二、津名村四、津久志村三、廣定村三、合計十二部落財産金穀貳千圓、學校及隔離病舍建物四百二十五坪余、同上敷地並山林溜池等一町七反二畝余歩の統一を見るに至れり又財産中穀物の如きは漸次之を賣却して金に替へしめ以て管理上の便を圖るの方針により之か整理を遂行せしめつゝあり

罹災救助資金の蓄積は由來天災地變の刺激少なきにより其造成遲々たりしも近時著しく覺醒して各町村共毎年蓄積に努め四十二年度末に於げる郡内一戸平均額壹圓貳拾五錢以上に上り東大田村の如き既に同參圓以上に達せるの現況なり



以上の財産は孰れも條例中若くは規程により管理方法を定め其管理の狀況は概して良好にして現金及有價証券は郵便局若くは確實なる銀行に預託して利殖を圖り區及部有財産に當り幾部個人貸付を見るも何れも回收確實なり

## 町村財産一覽

| 年次 | 町村基本財産 | 學校基本財産 | 町村有財産 | 區有財産 | 部有財産 | 合計 | 一町村平均額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 卅四年 | 一、六八三 | 一、八八九 | 三、〇三五 | 二、五〇〇 | 二四、八〇六 | 三三、九〇三 | 二、六〇七 |
| 卅五年 | 三、三三五 | 三、三四〇 | 四、五四七 | 二一、三〇三 | 二一、四四三 | 四四、〇一八 | 三、三八六 |
| 卅六年 | 二、四五九 | 二、五三八 | 七、七二七 | 九、七五七 | 二四、五五七 | 四七、〇三八 | 三、六一八 |
| 卅七年 | 七、〇五一 | 三、七五八 | 九、七五九 | 九、二四一 | 二三、四六九 | 五三、二七八 | 四、〇九八 |
| 卅八年 | 一〇、九四〇 | 四、一九二 | 一〇、一六五 | 一四、四三三 | 二四、〇五六 | 六三、七八五 | 四、九〇七 |
| 卅九年 | 一三、二五六 | 六、五九七 | 一三、〇三三 | 一三、四〇四 | 一九、七三八 | 七六、〇二八 | 五、八四八 |
| 四十年 | 一三、一一九 | 六、二二三 | 一三、三七六 | 一一、九二三 | 一八、六四三 | 七三、二八四 | 五、六三七 |
| 四十一年 | 一四、九七一 | 五、四五八 | 一三、一七二 | 一三、一七二 | 二九、〇四二 | 九二、七五三 | 七、一三五 |
| 四十二年 | 一四、三七六 | 六、一八九 | 一六、三三九 | 一九、五四二 | 二九、二二七 | 一三〇、六七三 | 一〇、〇五二 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四十三年 | 一六、七五七 | 七、九八七 | 六九、九一五 | 三二、〇一〇 | 三三、七四七 | 一五八、四一六 | 一三、一八六 |
| 四十四年 | 一九、〇一三 | 八、九七六 | 六九、五七三 | 三三、四八六 | 三四、六六九 | 一六四、七二九 | 一二、六七一 |
| 外に | 罹災救助資金 | | | | | 九、三三三 | |

## 町村税及縣税徴收の狀況

町村税の徴收に關しては多年督勵を加へ來りたるも公課に對する一般の觀念幼稚なりし爲め容易に進境を見ず殊に卅八年の如き米作減收の伴ふ等ありて百分中十六の滯納を見次て漸次遞減の傾向を呈せしも義務教育年限の延長に伴ひ四十一年度以降俄に町村費の澎大を來たし爲に進捗上一頓挫を見るの感ありしも之を數年前に對比するときは其面目を改め滯納歩合も亦其率を低下して改善の域に進みつゝあり而して郡内に於ける每年度の滯納額中三川津名の両村常に其八割以上を占め多年馴致せる弊根容易に芟除せられざりしを以て特に吏員を派し說示せしめたる結果著しき進捗を見るに至れり

縣税徴收の成績は別表示すが如く滯納歩合年を逐ふて遞減し本年前半期の如き全然其跡を斷



つの成績を得たり

## 町村税徴收成績

| 年度別 | 賦課額 | 滯納額 | 賦課額百圓に對する滯納額 |
|---|---|---|---|
| 三十六年度 | 三三、六一八円 | 四、〇三四円 | 一一、九九円 |
| 三十七年度 | 三七、三〇五 | 四、〇八七 | 一〇、九五 |
| 三十八年度 | 四一、八二八 | 七、〇一一 | 一六、八六 |
| 三十九年度 | 四二、九九〇 | 五、五五六 | 一二、九二 |
| 四十年度 | 四九、六六二 | 四、九一〇 | 九、八八 |
| 四十一年度 | 六七、四八二 | 六、六七八 | 九、八九 |
| 四十二年度 | 七一、五八〇 | 六、八一六 | 九、五二 |
| 四十三年度 | 七〇、二〇四 | 二、四八六 | 三、五四 |
| 四十四年度 | 六六、五二四 | 二、二四〇 | 三、三六 |

## 縣稅徵收成績

| 年度別 | 賦課額 | 滯納願 | 賦課額百圓に對する滯納額 |
|---|---|---|---|
| 三十四年度 | 三一、五〇九円 | 一四〇円 | 四、四五円 |
| 三十五年度 | 三九、一四四 | 一三一 | 三、三五 |
| 三十六年度 | 三四、五六五 | 一九四 | 五、六二 |
| 三十七年度 | 三〇、三八七 | 二〇〇 | 六、五八 |
| 三十八年度 | 三四、三五六 | 一八六 | 五、四二 |
| 三十九年度 | 三三、七五四 | 八三 | 二、四七 |
| 四十年度 | 四一、一九九 | 一一一 | 二、六八 |
| 四十一年度 | 四三、二二二 | 三五 | 〇、八一 |
| 四十二年度 | 四二、七九三 | 九 | 〇、二一 |
| 四十三年度 | 四六、〇一一 | 四二 | 〇、九一 |
| 四十四年度 | 五二、八〇六 | 六 | 〇、〇九 |



## 三年以上諸稅皆納町村

| 種別 | 年度 | 町村名 |
|---|---|---|
| 國稅 | 自三十九年度至四十四年度六ケ年度 | 津久志村 |
| 縣稅 | 自三十九年度至四十四年度六ケ年度 | 廣定村 |
| 仝 | 自四十一年度至四十四年度四ケ年度 | 東大田村 |
| 仝 | 自四十二年度至四十四年度三ケ年度 | 上山村、神田村 |
| 町村稅 | 自三十九年度至四十一年度三ケ年度 | 廣定村 |

## 矯風奬善に關する件

民風の改善振興を圖るは地方自治及産業の發達に至大の關係を有するを以て四十一年斯民會を組織し町村支部十三を有して之が振勵に努めつゝあり然れども創立日尚淺く未だ十分の活

動を見ずと雖ども漸次其歩を進むるの急遽的なるに優れるを以て日常の些事より之を及さんと欲し三大節に於ける小學校　勅語奉讀式參列、集會時間の勵行、陰曆廢止、取引季節及郷閭祭禮日の一定及從來區々の休日を大祭祝日若くは地方紀念日に改止せしむる等之か實行を督勵したる結果從來の面目を革むるに至れり而して以上の目的を達せしむると同時に精神訓育を奬むるの必須なるを認め昨年及本年に於て斯道の大家を聘し各町村毎に民政講演會を開き民風の刷新弊根の打破に努め効果最も顯著なるものあり民心又漸く民政講演の趣味を解するに至り毎會其聽衆を増加するの狀況なり

## 御登極五十年紀念事業調

一甲山町　里道改修、産業組合の組織
一三川村　造林（毎年貳拾五圓以上蓄積）及堆肥舍改良
一東村　教育基金造成（桐苗配付栽培）及堆肥舍改良
一廣定村　基本財産の増殖（毎年十圓以上）
一大見村　村役場改築（豫算見込壹千圓）及堆肥舍改良
一津久志村　基本財産の増殖（五十年迄に五百圓を積立つ）及堆肥舍改良
一小國村　造林の奬勵（一戸平均一反歩以上）



一津名村　村役場改築（豫算見込壹千圓）
一上山村　紀念事業費の蓄積（毎年五十圓以上）
一吉川村　村是の遂行、堆肥舍改良
一神田村　部有財産の統一、紀念事業費の蓄積（毎年一戸平均五拾錢）及堆肥舍改良
一西大田村　紀念事業費の蓄積（毎年貳拾圓）及堆肥舍改良

## 神社の整理

郡内の神社は郷社一、村社五十一、無格社百八十一合計二百三十三社を有せしも多くは其尊嚴を保持するの設備を缺き若くは財産及氏子の數寡少にして維持上困難なるもの尠からざるにより勸奬の結果漸次減少し今や村社五、無格社百十二、合計百十七社を合せ総數百十五社に整理せり而して目下神饌幣帛料供進の指定神社三十三社を有す

## 勤儉貯蓄の狀況

明治三十六年以來勤儉貯蓄組合を各町村に設置し漸次良好の成績を擧け勤勉儉素以て余資蓄積の美風作興するを得たり偶々日露戰役後奢侈の風潮瀰漫せんとするの傾向を認めたるにより奮て之が矯正を謀ると共に貯金思想の普及を期する爲め明治四十二年及四十四年夏季に於

て郡内各町村を巡回し大に警告する處あり爾來漸く面目を新にし左表の如く増額を示すに至れり就中郵便貯金は之を全國の平均額を見て未た及はさる所ありと雖も漸次増加の趨勢を呈するは慶すへき現象なりとす

| 區別 / 年次 | 郵便貯金 | | | | 産業組合貯金 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貯金額 | 貯金人員 | 一人當 | | 貯金額 | 貯金人員 | 一人當 | |
| 三十七年 | 二五、七九五円 | 六、三九〇人 | 四、〇三七円 | | — | — | — | |
| 三十八年 | 三九、八四五 | 八、一六五 | 四、九一〇 | | — | — | — | |
| 三十九年 | 六四、一一七 | 九、三一七 | 六、八八二 | | — | — | — | |
| 四十年 | 八四、九二七 | 一〇、五〇四 | 八、〇八三 | | 二、四二〇円 | 七三人 | 三二、一五〇円 | |
| 四十一年 | 九一、一七五 | 一一、四〇四 | 七、九九五 | | 三、一七三 | 一五四 | 二〇、六〇〇 | |
| 四十二年 | 九七、二八一 | 一一、九九八 | 八、一一五 | | 一三、九七六 | 九一六 | 一五、二五〇 | |
| 四十三年 | 一八、八一〇 | 一三、三〇九 | 九、六五二 | | 三三、二三九 | 一、三一六 | 二四、五〇〇 | |
| 四十四年 | 一三四、七三八 | 一三、二四二 | 一一、〇〇〇 | | 六七、九〇八 | 一、九三七 | 三五、〇六〇 | |



## 恤救者の整理

癈疾老衰疾病幼弱等にして孤獨頼るへきものなきときは誠に人世の慘事なりとす然れとも徒らに國帑の救助に頼らしむるか如きは隣保共同の美風を保持するの所以にあらざるを以て本郡に於ては之を隣保の救濟に移し不得止ものに限り町村に於て恤救せしむるの適當なるを勸奬し一昨年來之か整理を斷行したるの結果大に其數を減せり而して新規出願者の如きは篤く之を町村理事者に説示し相互救濟の途を講せしめ居れり

最近十ケ年恤窮一覽

| 年次 | 人員 | 金額 |
|---|---|---|
| 三十四年 | 六九人 | 一、〇二三円 |
| 三十五年 | 七一 | 九二六 |
| 三十六年 | 七四 | 一、一七七 |
| 三十七年 | 七七 | 一、一五一 |
| 三十八年 | 七〇 | 一、一二九 |
| 三十九年 | 六二 | 一、〇三四 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 四十年 | 七三 | 一、一四二 | |
| 四十一年 | 四二 | 一、〇五〇 | |
| 四十二年 | 一四 | 二八五 | |
| 四十三年 | 一〇 | 九一 | |
| 四十四年 | 八 | 八八 | |

## 學齡兒童就學の狀況

學齡兒童就學督勵に關しては多年意を須ゐたるの結果漸次良好の成績を示し不具癈疾等にて實際教育し得へからさるものを除くの外悉く之か就學を見るに至れり而して貧困兒童に對しては多くは町村費を以て雜當料を給し或は學用品の貸、給與、被服(地方特志家の寄贈にかゝるもの)給與等をなし一面小學校に於て諸種の奬勵方法を講し著に其効を奏しつゝあり又就學猶豫及免除に關しては三十九年以降悉皆之れか實査を行ひ事實疾病、不具等にして教育し得へからさるものゝ外は許可せさる方針を採り尙場合に依り特種教授等を爲さしめ可及的義務教育の普及を圖るに努めつゝあり



## 小學校々舍施設經營の狀況

本郡に於ける小學校は明治四十年度以前に於て尋常二十八、併置三、高等五、合計三十六校を有せしも四十一年小學校令の改正に伴ひ義務教育年限の延長となり從て兒童の增加を來せしを爲め設施設費の膨脹を見將來に於ける經濟上及教育普及上との關係より之か廢合の畫策を樹て漸次之れか整頓を告けたるの結果今日に於ては尋常一〇、併置一三(外に分教場六)高等二、合計二五となれり而して明治三十四年以降校舍の改築若くは增築をなせしもの二十校にして一校を除く外不完全と認むへきものなきに至れり又器械器具の設備に至りては共同購入の方法其他篤志家の寄附等に依り殆んと完成の域に達せり

## 世羅郡各小學校兒童調査

| 年度別 | 就學 | | 不就學 | | | | 就學 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 種別 | 尋常教科を修了したるもの | 尋常教科を修むへきもの | 猶豫 | | 免除 | | 計 | 總計 | 就學歩合 | 尋常科出席歩合 | 尋常科卒業 | 尋常小學校に入りし者 | 高等科卒業 |
| | | | 疾病 | 貧困 | 疾病 | 貧困 | | | | | | 全上 | 高等 |

| 年度別 | 學校數 尋常 | 學校數 尋常高等 | 學校數 高等 | 學校數 計 | 學級數 尋常 | 學級數 高等 | 學級數 計 | 本科正教員 尋常 | 本科正教員 高等 | 本科正教員 計 | 教員 最多 | 教員 最寡 | 教員 平均 | 教員 最多 | 教員 最寡 | 教員 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十四年 | 二六 | 二 | 四四 | 三四 | 六〇 | 一七 | 七七 | 四四 | 一一 | 五五 | 一四 | 九 | 一一、五九 | 二七 | 一六 | 一九、一〇〇 |
| 仝 三十五年 | 二六 | 二 | 四四 | 三四 | 六三 | 一七 | 八〇 | 四四 | 一一 | 五五 | 一四 | 九 | 一一、八四一 | 二七 | 一六 | 一八、九〇〇 |
| 仝 三十六年 | 二六 | 二 | 四三 | 三四 | 六六 | 一八 | 八四 | 四三 | 一二 | 五五 | 一四 | 九 | 一一、九七六 | 二四 | 一三 | 一八、五八三 |
| 仝 三十七年 | 二六 | 二 | 四三 | 三四 | 六六 | 二〇 | 八六 | 四三 | 一二 | 五四 | 一四 | 九 | 一一、九九九 | 二〇 | 一三 | 一八、一六七 |
| 仝 三十八年 | 二六 | 二 | 四三 | 三四 | 六六 | 二〇 | 八六 | 四三 | 一四 | 五六 | 一六 | 九 | 一二、一一四 | 二三 | 一四 | 一七、五三八 |
| 仝 三十九年 | 二六 | 二 | 四三 | 三四 | 六六 | 二三 | 八九 | 四四 | 一八 | 六三 | 一六 | 一〇 | 一二、六四四 | 二七 | 一四 | 一八、六六六 |
| 仝 四十年 | 二六 | 二 | 四三 | 三四 | 六六 | 二五 | 九三 | 四四 | 一五 | 五九 | 一八 | 一〇 | 一三、五四八 | 二七 | 一四 | 一九、五〇〇 |
| 仝 四十一年 | 分二七一二七 | 分二七一二七 | 四五 | 三四 | 六六 | 一三 | 九九 | 五九 | 一二 | 七一 | 二四 | 一〇 | 一四、三四五 | 二七 | 一六 | 一〇、九九九 |
| 仝 四十二年 | 分二七一二七 | 分二五四六四 | 四五 | 三四 | 九七 | 一三 | 一一〇 | 六三 | 一二 | 七五 | 三〇 | 一〇 | 一五、九五五 | 二四 | 一六 | 一一、五〇〇 |
| 仝 四十三年 | 分二七五二五 | 分二七五二五 | 四五 | 三四 | 一〇三 | 一四 | 一一七 | 六四 | 一三 | 七七 | 三〇 | 一〇 | 一六、四三三 | 二七 | 一六 | 一二、一五四 |
| 仝 四十四年 | 二三 | 分二七五二五 | 四五 | 三四 | 一〇六 | 一七 | 一二三 | 五九 | 一七 | 七六 | 三〇 | 一一 | 一六、一二〇 | 三五 | 一八 | 一三、〇〇〇 |

## 小學校兒童貯金の狀況

兒童貯金の奬勵は教育上幣害なき範圍内に於て兒童をして各地方の生産的業務に從はしめ以て勤儉貯蓄の美德涵養に努めし結果漸次貯金並に兒童數を增加するに至れり

### 兒童貯金調（各年度末調）

| 年度別 | 人員 | 貯金總額 | 學校兒童百人中貯金兒童歩合 |
|---|---|---|---|
| 三十七年 | 一七七〇 | 一、九一二円 | 三九、六〇 |
| 三十八年 | 二三八八 | 二、六八一 | 五二、七七 |
| 三十九年 | 二三七八 | 三、六五二 | 四八、五〇 |
| 四十年 | 二四三三 | 三、八六〇 | 四七、九五 |
| 四十一年 | 二六二三 | 五、三五二 | 五〇、五八 |
| 四十二年 | 二五六〇 | 六、六二五 | 五〇、六六 |
| 四十三年 | 二四七六 | 五、〇四八 | 四二、六二 |
| 四十四年 | 二八一一 | 一一、一〇〇 | 四八、二九 |



## 郡立學校

世羅郡立世羅女學校は元明治三十四年四月世羅郡甲山町多田ミチ私立裁縫講習所を開きしを仝年十一月世羅郡私立教育會の附設とし仝三十七年四月之を郡の經營とし組織を變更すると共に女子實業補習學校と改稱し次て仝三十九年四月女子裁縫學校仝四十二年四月世羅女學校と改稱せり然して尙將來校の發展上組織變更の必要を認め四十三年四月より實業學校中徒弟學校組織とし地方適切の學科に重きを置き今日に及へり、明治四十年以降に於ける狀況を摘記すれは左の如し

| 年度別 | 在籍生徒數 | 出席生徒數 | 卒業生徒數 | 職員數 | 校費 |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治四十年 | 五二 | 四一 | 一一 | 三 | 九五四、七六〇円 |
| 仝 四十一年 | 六五 | 四一 | 一〇 | 四 | 一四一九、〇〇〇 |
| 仝 四十二年 | 四七 | 四五 | 一一 | 五 | 一六四二、〇〇〇 |
| 仝 四十三年 | 五三 | 五〇 | 二一 | 五 | 一六六五、〇〇〇 |
| 仝 四十四年 | 五八 | 五三 | 一三 | 五 | 二七七五、〇〇〇 |
| 仝 四十五年 | 六三 | | | 六 | 三二九九、〇〇〇 |

## 青年會の現狀

本郡には從來夜學會、若衆講（宗教的團体）若連中、同窓會、校友會等の諸團体ありて各地に散在し中には稍其面目を維持するものありしも何れも統一なきにより多くは紀律節制を欠き爲めに弊風の伴ふものありて社會風教上忽諸に付すを許さざるの狀態なりしを以て之れが組織變更の急務なるを認め明治四十年之が設置標準をし示督勵に努めたるの結果漸次組織を變更し全四十一年七月に至り各町村共全く成立を告げ爾來年々各二回以上總會又は部會を開催し知名の士を聘して講演會、高齢者慰籍其他公共事業の援助等をなし目下專ら之が振興を計りつゝあり今其概況を擧くれは左の如し

| 會數 | 會員年齢 | 事業の大要 |
|---|---|---|
| 一三 | 十五才以上三十才以下 | 新聞雜誌講讀、講演會、夜學會、共同小作、規約貯金、農産物品評會、高齢者慰籍、善行者表彰 |

| 支部又は事業區 | 資産 | 維持法 |
|---|---|---|
| 三八 | 六九五、七二七 | 會員共同勞力にて得たる金及有志の寄附金樹栽、講習會、其他角力、擊劍等体育會 |

| 會員數 | 備考 |
|---|---|
| 二、六三八 | 資産積立は地方有志の義捐によるものありと雖多くは共同作業により得たるもの幾部宛を積立しものなり |



以上團体の統一及指導誘掖をなす爲め四十一年七月町村青年會成立と同時に郡青年會を組織し町村青年會を振勵すると共に左の事業を經營せり

(一) 巡回文庫設置

明治四十二年一月より巡回文庫拾參個を設け各町村青年會をして回覽せしむ其狀況左如し

| 年度 | 購入圖書數 | 全價 | 上格 | 巡回文庫 | 開庫延日數 | 一青年會平均開庫日數 | 閲覽延人員 | 平均一會閲覽人員 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四十二年 | 三三六冊 | 六六、四四〇円 | 一三個 | 一、一七〇日 | 九〇日 | 九一〇人 | 七〇人 | | 經費は縣奬勵交付金及郡補助金に依る |
| 四十三年 | 八八九 | 九四、〇三〇 | 一三 | 四、七四五 | 一ヶ年 | 一五〇四 | 一一六 | | |

(二) 蓄音機一臺を有し町村青年會總會、部會、開會の際娯樂用として貸與す

(三) 毎年一回總會を開き講演並に優良青年會の表彰を行ひ併せて町村青年會に於て經營すへき事業の大要を選定す

## 米麥作奬勵の大要

米麥作は漸次發達の趨勢にして益振興を計りつゝあり而して其奬勵方法は郡農場を設け農業技手を置き專ら耕種法改良の指導に從事せしめ且つ良種の普及繁殖を圖り又耕地整理を奬勵して二毛作の增加を講じ其他產米の改良を圖り檢査を勸誘し或は產米其他の農作農產物品評會を奬勵して年々褒賞若くは奬勵金を交付し又は害蟲驅除豫防を勵行する等其指導誘掖に努めつゝあり就中綠肥栽培、米麥種子撰種、水稻正條植、共同苗代設置、麥奴豫防、堆肥舍改良の如きは縣下農事改良六必行事項として明治四十年以來銳意之が奬勵に力を致し爲めに綠肥栽培、選種、正條植、麥奴豫防法施行規則中に加へられ以來五十四町八反歩餘の特免を得たるものゝ外悉く之が實施を見又共同苗代は漸次進歩しつゝありしか一度强制反抗運動の起りし以來本郡も亦其渦中に投じ全く廢せらるゝの悲境に陷り爾來大に奬勵を加へ僅かに數ヶ所を持續せしも本年奬勵金交付の廢止に依り又々減少するに至れり堆肥舍の改良は逐年增加しつゝあるも其進捗速かならす然れとも堆肥改良は農業經濟上頗る關係多きを以て各町村に對し明治四十四年度より明治五十年の　御慶典を期し郡內に普及せしむるの方針を以て篤く訓示する所あり已に奬勵規程を設定勸奬しつゝあるもの八ヶ村(內小國村は農會に於て年々奬勵金交付しつゝあり)にして未定のもの五ヶ町村あるも經へす勸誘中に屬し本年春季建設數は未た其統計を得さるも在來のものに比し之に超過するは疑を容れさる所にして將來大に增加するは信じて疑はさる所



なり而して米穀檢査は一般の勸誘に努むると共に又た地主會をして小作米改良奬勵米交付の方法を設けしめ以て大に受檢を勸誘し又一般受檢者の便宜を圖らんとし米劵倉庫組合に倉庫の新設を奬勵し已に小國米劵倉庫組合(小國村にあり)之を實行し尙增築の計畫あり世羅東部米劵倉庫組合亦新築の準備(甲山町東大田村地內聯合)に屬し何れも竣成の曉は大に受檢者增加の見込なり茲に斯業に關する成績を揭くれば次の如し

## 米作付反別及收穫調

| 年次 | 作付反別 | 收穫高 | 反當收穫 |
|---|---|---|---|
| 明治三十三年 | 四、八四七、八町 | 三九、九九四石 | 八二五合 |
| 仝　三十四年 | 四、八五九、九 | 四二、〇九三 | 八六六 |
| 仝　三十五年 | 四、八六六、一 | 二八、六四六 | 五八八 |
| 仝　三十六年 | 四、八九〇、二 | 五五、五二三 | 一、一三五 |
| 仝　三十七年 | 四、八二五、七 | 五七、七二八 | 一、一九六 |
| 仝　三十八年 | 四、八六九、九 | 四五、六三六 | 九三七 |
| 仝　三十九年 | 四、八七九、七 | 五九、九九四 | 一、二三一 |

| 年次 | 作付反別 | 大麥 | 小麥 | 裸麥 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十三年 | 二、〇三〇反 | 四九六三石 | 六五五石 | 六、七二一石 | 二二、五五九 |
| 仝 三十四年 | 二、〇四八、六 | 五、五一六 | 八四〇 | 七、五〇七 | 一三、八六三 |
| 仝 三十五年 | 二、〇四四、三 | 四、八二六 | 六三二 | 六、一四〇 | 二二、五六七 |
| 仝 三十六年 | 一、九七七、七 | 二、五九七 | 一六五 | 三、九〇九 | 六、七二一 |
| 仝 三十七年 | 二、一四七、一 | 六、七一二 | 一、六二五 | 九、九八三 | 一八、三二〇 |
| 仝 三十八年 | 二、〇四七、二 | 六、四五三 | 九四五 | 一〇、〇〇三 | 一七、四〇一 |
| 仝 三十九年 | 二、〇七三、六 | 六、三八九 | 九〇〇 | 九、三二四 | 一六、六一三 |
| 仝 四十年 | 二、一四三、三 | 五、九七三 | 一、一九八 | 一一、七〇一 | 一八、八七三 |
| 仝 四十一年 | 二、三一五、四 | 六、二五二 | 一、三三一 | 一二、二八一 | 一九、八六四 |
| 仝 四十二年 | 二、三七三、〇 | 五、七五七 | 一、〇四一 | 一二、〇六五 | 一八、八六五 |
| 仝 四十三年 | 二、二九四、一 | 五、四八二 | 一、一三三 | 一〇、六六三 | 一七、二七八 |
| 仝 四十四年 | 二、二五〇、〇 | 五、九一八 | 一、六三四 | 一二、一五九 | 一九、七一一 |



麥作付反別及收穫高

| 年次 | 作付反別 | 大麥 | 小麥 | 裸麥 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十三年 | 二、〇三〇反 | 四九六三石 | 六五五石 | 六、七二一石 | 二二、五九七 |
| 仝 三十四年 | 二、〇四八、六 | 五、五一六 | 八四〇 | 七、五〇七 | 一三、八六三 |
| 仝 三十五年 | 二、〇四四、三 | 四、八二六 | 六三二 | 六、一四〇 | 二二、五六七 |
| 仝 三十六年 | 一、九七七、七 | 二、五九七 | 一六五 | 三、九〇九 | 六、七二一 |
| 仝 三十七年 | 二、一四七、一 | 六、七一二 | 一、六二五 | 九、九八三 | 一八、三二〇 |
| 仝 三十八年 | 二、〇四七、二 | 六、四五三 | 九四五 | 一〇、〇〇三 | 一七、四〇一 |
| 仝 三十九年 | 二、〇七三、六 | 六、三八九 | 九〇〇 | 九、三二四 | 一六、六一三 |
| 仝 四十年 | 二、一四三、三 | 五、九七三 | 一、一九八 | 一一、七〇一 | 一八、八七三 |
| 仝 四十一年 | 二、三一五、四 | 六、二五二 | 一、三三一 | 一二、二八一 | 一九、八六四 |
| 仝 四十二年 | 二、三七三、〇 | 五、七五七 | 一、〇四一 | 一二、〇六五 | 一八、八六五 |
| 仝 四十三年 | 二、二九四、一 | 五、四八二 | 一、一三三 | 一〇、六六三 | 一七、二七八 |
| 仝 四十四年 | 二、二五〇、〇 | 五、九一八 | 一、六三四 | 一二、一五九 | 一九、七一一 |

綠肥栽培調

自明治三十六年至仝四十四年九ヶ年分

| 年次 ＼ 區別 | 作付反別 | 收穫高 總收量 | 收穫高 反當收量 |
|---|---|---|---|
| 明治三十六年 | 一三、六町 | 二二、四四〇 | 一六石 |
| 仝 三十七年 | 二九、三二 | 五五、〇八四 | 一八八 |

## 麥類豫防成績

| 年次＼区別 | 蔘作付反別 | 施行反別 | 歩合 |
|---|---|---|---|
| 明治四十年 | 一、九九一、四九〇〇 | 一、九六六、八八〇〇 | 九分八厘 |
| 仝 四十一年 | 一、九七〇、六五二九 | 一、九七〇、六五二九 | 十分 |
| 仝 四十二年 | 一、九七八、〇〇〇〇 | 一、九七八、〇〇〇〇 | 十分 |
| 仝 四十三年 | 二、〇三六、四〇〇〇 | 二、〇三五、一〇〇〇 | 九分九厘九毛 |
| 仝 四十四年 | 二、〇三九、三〇〇〇 | 一、九七〇、七〇〇〇 | 九分七厘 |

## 米麥撰種

| 年次＼区別 | 米種子 撰種量 | 米種子 撰種量 | 米種子 歩合 | 麥種子 撰種量 | 麥種子 撰種量 | 麥種子 歩合 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治四十年 | 三、〇五八、九三五石 | 二、五三〇、一四八石 | 八分五厘 | 一、〇五〇、〇〇〇石 | 九〇五、〇〇〇石 | 八分七厘 |
| 仝 四十一年 | 三、〇四一、〇六六 | 二、八二四、五六七 | 九分三厘 | 一、二五二、〇〇〇 | 九五二、〇〇〇 | 八分二厘七 |
| 仝 四十二年 | 三、二二七、〇二九 | 三、一三九、六二九 | 九分八厘 | 一、二四八、〇〇〇 | 八九八、〇〇〇 | 七分八厘 |
| 仝 四十三年 | 三、一七七、四七八 | 二、九九九、四四八 | 九分四厘 | 一、二五九、〇〇〇 | 七九一、〇〇〇 | 七分 |
| 仝 四十四年 | 三、〇一六、九三三 | 二、九五〇、七三三 | 九分八厘 | 一、二八五、〇〇〇 | 九五二、〇〇〇 | 八分 |

## 改良堆肥舍設置數

| 年次 | 設置數 | 累計 |
|---|---|---|
| 明治三十九年以前 | 二三 | 二三 |
| 仝四十年 | 二八 | 五一 |
| 仝四十一年 | 二三 | 七四 |
| 仝四十二年 | 二三 | 九七 |
| 仝四十三年 | 一三 | 一〇 |
| 仝四十四年 | 一八 | 一八 |

## 米穀檢査狀況

| 年次 | 俵數 |
|---|---|
| 明治四十三年度 | 五、八六九俵 |
| 明治四十四年度 | 八、七五五 |



## 郡農場の經營

明治三十二年本郡農會に於て農事試作場を設け專ら米麥作の試作に充て明治三十五年度より郡事業に移し米麥作の外蔬菜果樹を試培し來りしが明治三十九年度より郡模範農場に變更擴張し農業技手を置き專ら其作業を擔當せしめ模範栽培及良種苗の配付を行ふと同時に又指導奬勵に從事せしめたり然るに明治四十三年二月郡農業技手設置費補助規程發布同時に前記郡模範農場規程廢止に依り明治四十三年度より郡農場と改稱し耕作面積は幾部減せしも事業は尙從前の如く之を踏襲し新に土壤及肥料の分析をなすことゝせり

### 農場の現況

| 明治四十四年度 | 位置 | 試作地 | 建物 | 四十五年度經費 | 事業 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 東大田村 | 田 四、四一七<br>畑 一、八〇五 | 農屋 三三坪<br>堆肥舍 六 | 五二九、三八〇<br>(技術員費を除く) | 米、麥、蔬菜、果樹の試作<br>同模範栽培<br>種苗の無料若くは低價配付<br>土壤肥料の分析 |

## 種苗配付狀況

自明治三十九年度
至明治四十四年度

| 年次 | 米 種類 | 米 數量 | 米 人員 | 麥 種類 | 麥 數量 | 麥 人員 | 其他 種類 | 其他 數量 | 其他 人員 | 苗木 種類 | 苗木 數量 | 苗木 人員 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三十九年 | 福山八重穗 | 二、七九〇石<br>一、六四〇 | 四六人<br>三〇 | | | | | | | | | | |
| 四十年 | 福山中器量好 | 二、八六〇<br>一、八五 | 三四三<br>五 | | | | | | | 桐<br>梨 | 一〇〇本<br>三五 | | |
| 四十一年 | 島田坊主<br>福山 | 一、二一〇<br>一、六一八 | 十三<br>役場 | | | | 八つ房<br>菜豆 | 〇、六〇合<br>九〇人 | | 苹果<br>梨 | 七五本<br>三五 | | |
| 四十二年 | 島田坊主<br>福山神力 | 一、三七〇<br>二、〇八〇<br>〇、五一〇 | 三四<br>四四<br>一五 | 紅梅 | 一、五〇〇石 | 四一 | | | | 桑<br>梨 | 八、五〇〇<br>七〇 | | |
| 四十三年 | 島田坊主<br>福山 | 三、九九〇<br>三、九九〇 | 七九<br>二三 | 紅梅 | 三、七一〇 | 九三 | | | | 栗 | 一、六〇 | 五人 | |
| 四十四年 | 島田坊主<br>福山 | 三、四五〇<br>三、四五〇 | 八〇<br>五五 | 仝 | 二、一三〇 | 五三 | | | | 澁西條<br>仝美濃<br>丹波栗 | 三一〇<br>九五<br>一八〇 | 一一三<br>五四<br>四九 | |



## 耕地整理の狀況

本郡田反別四千八百九十七町の内從來二毛作付地は僅かに千八百有餘町歩にして其他は全く米作一毛に止まり冬季之を休閑せり之れ山間溪谷の間に狹まれたる不良田にして收支相償はさるものあるに由ると雖も地勢低平なる濕田にして作付困難なるによるもの尠からず之れを整理するに於ては米麥作に將た緣肥栽培に或は勞役減少に多大の利益あるを認め耕地整理の奬勵に努めつゝありしが明治三十七年神田村篤農家阪井完一發起し關係地主を勸誘し仝村大字上德良に於て面積貳拾七町貳反貳拾壹歩を起工せしを嚆矢とし次て明治三十八年津名村篤農家宮本修三亦之を發起し地主を勸誘して津名村大字上津田に於て面積參拾壹町五反四畝貳拾壹歩を起工せり而して何れも成績良好なるを以て地方具眼者の注意を喚起し爾來之を發起計劃するもの續出するに至れり茲に於て明治四十二年度より技術員を任用し設計調査並に工事監督に任し益指導誘掖に努め一面郡内の基本調査に着手し以て其の普及發展を促し今や郡内十三ケ町村の内九ケ村に竣工又は起工するものあるに至れり即ち現況を示せは左の如し

| 郡内町村數 | 全施行町村數 | 箇所數 | 工事完了反別 | 工事未了反別（施行認可濟） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一三 | 九 | 一四 | 三五〇、〇町 | 一六六、三町 | 四一六、三町 |

## 産業組合の狀況

産業組合設立に付ては數年前より之れが奬勵に努めつゝありしが明治四十年七月初めて吉川村に信用組合を組織せるも其他之れが設立を見るに至らず茲に於て明治四十一年郡内各町村吏員及篤志者を集め講習會を開き仝四十二年各町村に講話會を開き又町村の必行事項として其の設立を勸奬せるの結果左の成績を實現するに至れり而して仝四十二年に於て郡部會を設け各産業組合の連絡統一を圖り指導に任し組合の肥料、食鹽、農具等の購入を取扱ひつゝありしも組合の增加と年を經るに從ひ組合資金の運轉其他事業施行上不便を感するのみならず組合の利益を增進し益向上發展を圖らんとし更に郡内産業組合聯合會設立の議決定目下認可申請中なり

### 組合現在表

| 組織＼設立年次 | 明治四十年 | 明治四十一年 | 明治四十二年 | 明治四十三年 | 明治四十四年 | 明治四十五年 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 無限責任 | 一 | | 一 | 一 | 一 | | 三 |
| 保証責任 | 一 | 三 | 四 | 二 | 三 | | 一二 |
| 有限責任 | 一 | 一 | 二 | 一 | 七 | | 一二 |
| 計 | 一 | 四 | 六 | 三 | 一一 | 二 | 二七 |

備考　信用組合は無限責任一有限責任一合計二あるのみにして其他は何れも四種兼營なり

### 組合成績

明治四十四年末現在

| 出資總額 | 拂込濟出資額 | 貯金高 | 貸付高 | 組合員數 |
|---|---|---|---|---|
| 一九、〇二〇円 | 一五、三七九円 | 六七、九〇七円 | 四七、二四二円 | 三、一四二人 |

## 輸出眞田奬勵の狀況

夢穆經木眞田業は日露戰役中産業作興の急務なるの時に際し農家子女の副業として最も適當なるを認め該役紀念事業として起業せるものにして明治三十七年末日數五十日間講習會を開き續て合町村に日數三十日間つゝ傳習所を開設し爾來二年間内に於て季節を撰ひ本縣より巡回教師數名の派遣ヲ請ひ又は本郡に於て之を任用し巡回教授をなさしめ或は品評會を開き或

は販賣上の便宜を講し若くは主任者を派して勸奬に努むる等種々指導誘掖の結果漸く現狀を見るに至れり

| 區別／年次 | 明治三十八年 | 明治三十九年 | 明治四十年 | 明治四十一年 | 明治四十二年 | 明治四十三年 | 明治四十四年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 產額 | 三、八三九反 | 一七、三一三反 | 一五、二四七反 | 三五、四〇〇反 | 二七、七五〇反 | 八六、一〇〇反 | 二二四、九三〇反 |
| 價額 | 九八五円 | 四、一〇八円 | 三、四七二円 | 四、五八六円 | 三、一二〇円 | 七、七四九円 | 一八、二六九円 |

## 畜產の狀況

### 馬匹

古來本郡は馬匹を飼養するもの多く貨物の運搬は殆んと之れが役力に待つ所なりしが近來車道の改鑿ありしに依り大に馬力を省くに至り十數年前に比し著しく減少せり而して從來之を農耕に使役するの稀なると產馬育成の習慣なかりしとに依り輓近其頭數は稍固定して增減甚た少し而して產馬は往古よりの慣習上殆んと無かりしも近時之を行はんとせるものあるに至れるも其數甚た少く僅かに十頭內外に過ぎざるべし茲に已往十年間の飼養戶數を揭くれは左表の如し

### 畜牛

畜牛は耕作用として農家は概ね之を飼養せり而して郡の北西部各村は古來蕃殖の慣習ありしも其の數甚た多からず其他の町村は牡牛を飼養するもの多く從て蕃殖せしむるもの極めて稀なりき然れとも本郡は氣候地勢不適なるにあらず殊に副業奬勵上最も適當なるを認め明治三十四年產牛組合を設けしめ產犢の改良を圖ると共に其蕃殖を講し爾來郡は事業費を補助し又は種牡牛を貸付して其の助長に努め又は技術員を任用して畜產一般に關する指導奬勵に從事せしめつゝあり其の間價格の高低等に依り多少の消長を免れすと雖とも其の大勢の進境にあるや疑なしとす今已往十ケ年間牛馬の現在及蕃殖並に種牡牛數を示せは左の如し



### 牛馬數表

| 年次／種別 | 馬 | 牛 牝 | 牛 牡 | 牛 計 | 產牛頭數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十五年 | 七〇一 | 一、八九四 | 二、〇九六 | 三、九九〇 | 八七四 |
| 明治三十六年 | 七二二 | 一、八九六 | 二、一一五 | 四、〇一一 | 八七四 |
| 明治三十七年 | 七二三 | 一、九七三 | 二、二五〇 | 四、二二三 | 七一一 |
| 明治三十八年 | 六二七 | 一、七一一 | 二、七一二 | 四、四二三 | 六五九 |
| 明治三十九年 | 六三六 | 一、九五八 | 二、七一九 | 四、六七七 | 一、〇三四 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 明治四十年 | 六六七 | 二、三六二 | 二、四三八 | 四、八〇〇 | 一、〇六九 |
| 明治四十一年 | 六五七 | 二、五一三 | 二、三六四 | 四、八七七 | 一、一五八 |
| 明治二十二年 | 七〇六 | 二、五〇二 | 二、四三五 | 四、九三七 | 一、一八二 |
| 明治四十三年 | 六七六 | 二、七三四 | 二、一八八 | 四、九二二 | 一、〇七九 |
| 明治四十四年 | 六九七 | 二、五三五 | 二、四七四 | 五、〇〇九 | 九三〇 |

## 種牡牛頭數表

明治四十四年末

| 種類 | 組合種牡牛 | 個人有種牡牛 | 計 |
|---|---|---|---|
| エーアシヤー種 | 一 | 一 | 一 |
| ブラウンスヰツス雜種 | 三 | 一 | 三 |
| 內國種 | 一四 | 二 | 一六 |
| 計 | 一八 | 二 | 二〇 |



## 蠶業奬勵の狀況

蠶業は明治二十年頃一時勃興の趨勢なりしか未た蠶病消毒行はれず岨害は逐年增長し桑樹培養亦充分ならず加ふるに勞役者減少等の障害により養蠶の利益薄く爲めに廢止するもの相起り漸次衰運を來したるも蠶業は農家の副業として適當の事業たるのみならす勞役の減少ありと雖ども計劃其度に適せば斯業發展の余地なきにあらず殊に近時養蠶術進歩し如上の障害を排除するあれは前途有望の事業たるを認め銳意指導勸奬に努め一面郡農會をして專ら其任に當らしめ年々郡費より補助若くは奬勵金を交付して該會の事業を助長しつゝあり其結果輓近漸く斯道に着眼するもの增加の傾向を示すに至れり而して已往十ヶ年間の產額左の如し

| 區別＼年次 | 明治三十五年 | 明治三十六年 | 明治三十七年 | 明治三十八年 | 明治三十九年 | 明治四十年 | 明治四十一年 | 明治四十二年 | 明治四十三年 | 明治四十四年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 飼養戶數 | 一三五戶 | 一六一 | 一五五 | 一五四 | 一〇三 | 七九 | 八五 | 一〇五 | 一六六 | 一九〇 | |
| 掃立枚數 | 一四三枚 | 一三四 | 一二九 | 一〇五 | 九一 | 七九 | 七七 | 七一 | 七七 | 六〇 | |
| 產額 | 一一五石 | 一一〇 | 一一七 | 九三 | 六四 | 六一 | 六三 | 六三 | 六二 | 六三 | |
| 價額 | 五、〇五六円 | 四、七一四 | 三、九二八 | 二、四七二 | 二、七七六 | 二、五八六 | 二、八七四 | 二、四一五 | 二、二三 | 二、〇八七 | |
| 桑園反別 | 二三、九反 | 二三、七 | 二三、五 | 二四、八 | 二三、三 | 一四、〇 | 二〇、五 | 二〇、四 | 二一、二 | 二三、六 | |

## 殖林奬勵に關する經營

本郡は殆んど二万五千町歩に垂んとする廣面積の山林を有するも從來殖林行はれず漸次交通の便開くるに從ひ益々濫伐の弊增長するも自然の萌芽發生に放任し敢て顧るものなし茲を以て郡下の山林は益々裸山稚木增加し地力減退せり之れ啻に山林經濟の消長に關するのみならず國土保安上亦忽にすへからざるを認む茲に於て明治三十二年始めて郡農會に於て樹苗圃を設置し殖林奬勵に充てたり然れとも其企劃小にして郡内に普及するの甚た遲緩なるを憂ひ明治三十七年度より郡事業に移して十ヶ年計劃を定め規模を擴大にし二百四十町歩に植栽すべき苗木を無代配付し一面苗木栽培の模範を示し又郡農會の所有模範林一町三反余を讓受けて新たに十一町余の模範林を設置して一般殖林の模範とし且郡有財産の增殖に資し又各町村をして日露戰役紀念林を設けしめ之れに植栽する苗木を無代配付せり其他講習講話若くは實地指導に努むる等鋭意斯業の向上發展を圖りつゝあり左に現在經營の概要を表示す

| 種別 | 反別 | 種苗無代配付數 樹種別 | 四十一年度 | 四十二年度 | 四十三年度 | 四十四年度 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 郡模範林 | 一三、四九一丁 | 杉 | 三七、九六五 | 三四、〇七八 | 六一、八一六 | 四七、三九九 | 一〇二、四三二 |
| 郡樹苗圃 | 一、四三一、九二五 | 柏 | 六、九九〇 | 一四、一七九 | 一一、三七〇 | 九、一四九 | 四一、五四八 |
| 町村日露戰役紀念林 | 一七、六〇〇坪 | 樣計 | 四四、九五五 | 四八、三五七 | 一、一四、四三五 | 一九、九八六 | 二一、七八八 |
| | | | | 八七、六三二 | 二五八、五三四 | 一六五、七六八 | |
| | | | | | | | 一五六、二〇九 |
| | | | | | | | 九〇五、一三六 |



## 商工業一斑

本郡は前述の如く概ね農を以て業とし商工業者甚た尠く商賈は僅かに郡内農産を販出し又日用品の供給をなすに止まり特に記すべきものなし工業又微々たるものにして機械力に依るもの若くは大工場なく多くは農家の副業たるに過ぎす從て其生産の種類産額多からす其の中主なる工業品林産製品産額を揚くれは左の如し

### 主要工業品及林産物産額調　明治四十四年

| 品名 | 産額・價額 | |
|---|---|---|
| 下駄類 | 二五七、八五〇足 | 一九、三六八円 |
| 建具類 | 九、五七〇間 | 七、四七九 |
| 板類 | 一一、五三〇坪 | 九、二二四 |
| 材木類 | 六、九八〇尺 | 一三、九六〇 |
| 炭 | 三八、〇六〇貫 | 二、二八四 |

## 交通機關の狀況

本郡は古來道路狹隘又坂路多くして車輛の交通に適せず爲めに貨物の運搬甚た不便なりしが明治十七年來三次町より都府に達する縣道の改修ありしを嚆矢とし爾來縣道二線の改修ありしが又逐年里道の改修ありて今や各町村に車道の通せざるなく昔日と大に其の趣を異にせり而して其の修理保全に至りては縣道は近時大に見るへきものありて從前の面目を一新するに至れり又里道は縣費補助線に編入されたるもの少からさるも町村の經濟上僅に急救施工を爲すに止まり甚た不充分なりしを以て明治四十二年八月小修繕規則の標準を示して之れが施工を督勵しつゝあるも未た改善の域に達せさるは甚た遺憾とする所なり左に既改修線路數及延長を掲く

| 種別 | 線路數 | 延長 |
|---|---|---|
| 縣道 | 三 | 九里五町三十二間二分 |
| 里道 | 二四 | 五十里十五町十六間一分 |

備考　目下里道改修中のもの三線延長約六里なり

## 實業團体の狀況



### 郡農會

明治廿八年創設以來或は品評會を開き又は試作場を設け或は樹苗圃を設置し若くは技術員を置きて農事の指導奬勵に任し其他各種の施設に依り農界に貢献せる所尠からず而して郡其他の團体と常に氣脈を通し事業の重複施設を避け努めて農事の奬勵上偏倚なからんことを期し郡に於て試作場樹苗圃及模範林の經營あるや是等の事業は之を郡に移し專ら縣下農事六必行事項の奬勵農業智識の普及等に盡瘁せり又明治四十三年新に蠶糸業奬勵方法を規定して明治四十三年度より全五十年迄八ヶ年計劃を立て其他各種の施設を企劃し以て蠶業奬勵の基礎を確立せり現今に於ける施設事業の大要を掲くれは左の如し

一、桑園設置奬勵

新に桑園を設置するものに對し八ヶ年間(毎年六町二反歩以上)一反歩金六圓以内の奬勵金を交付す

二、模範桑園設置

四ヶ年を期し各町村に一反歩つゝの模範桑園を設置す

三、桑苗園設置

年々桑苗園四反歩を設置し桑園設置者に健良なる苗木を低廉に配付す

四、稚蠶共同飼育奬勵

稚蠶共同飼育所設置を奬勵し一ケ所に付金參拾圓以内の奬勵金を交付す

五、蠶業講習

蠶業講習所を開き學理及實地を講習せしむ

六、蠶病消毒

蠶病消毒器及殺蛹場を設け養蠶者の共用に供す

七、座繰製絲講習

屑物を整理し養蠶家の利益を增進するの目的を以て製糸講習を開設す

八、蠶種配付

蠶種の共同講入を行ひ其の購入額(指定の種類にして原種用を飼育するものに限る)の三割を無代交付す

九、農事講習

五日間乃至十日間の日數を以て各所に農事講習を開く

十、俵米品評會開會

產米及俵裝の改良合同販賣の利益を周知せしむる目的を以て開催す

十一、紫雲英種子の購買斡旋

本會經費明治四十五年度分豫算金千六百參圓拾六錢内事業費千參百七圓九拾錢にして其の主なるものは蠶業奬勵費にて千百參拾貳圓九拾錢其他は技術員費農事講習所費俵米品評會費等なり



## 產牛組合

本組合は明治三十四年の創立にして爾來種牡牛を設置し或は品評會を開き以て改良蕃殖を圖り或は畜牛の合同販賣を行ひ實買取引の情弊打破に努め其他技術員をして指導誘掖に從事せしめ牡牛去勢を奬勵し又視察員を派する等鋭意改善增殖に盡瘁し明治四十一年廣島縣產牛馬組合聯合會に加入せり而して創立以來組合の狀況を表示すれは左の如し

| 年次 | 區別 | 年度末現在組合員數 | 組合經費決算額 | 年度末現在種牡牛數 | 組合種付牡牛數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十四年 | | 一、七五七人 | 一、〇五三、八四三円 | 七 | 八〇三 |
| 仝 三十五年 | | 一、七三九 | 一、八〇四、八八一 | 一二 | 七八〇 |
| 仝 三十六年 | | 一、八一三 | 一、二〇六、四八〇 | 一五 | 七二六 |
| 仝 三十七年 | | 一、八四七 | 一、一一二、二四二 | 一六 | 七二八 |
| 仝 三十八年 | | 一、八六八 | 一、二二一、三八七 | 一八 | 九六八 |
| 仝 三十九年 | | 一、九七四 | 一、七七七、二七七 | 一九 | 一、〇八五 |
| 仝 四十年 | | 二、一二九 | 二、三〇五、九九〇 | 一八 | 一、〇一九 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 仝 四十一年 | 二、二一〇 | 二、四二一、一二四 | 一六 | 七七九 |
| 仝 四十二年 | 二、二五九 | 一、七二一、五六四 | 一八 | 六一八 |
| 仝 四十三年 | 二、二八五 | 一、二七七、一六七 | 一六 | 五五九 |
| 仝 四十四年 | 二、二九八 | 一、〇六三、〇〇〇 | 一八 | 八五四 |

明治四十四年度末現在種牡牛エーアシヤー種一頭ブラウンスヰツス雜種三頭內國種十四頭計十八頭經費豫算金千參百拾六圓貳拾五錢にして事業種類は種牡牛の設置臨時家畜市場の設置技術員囑托去勢奬勵等なり

前表種付數明治四十一年以來漸次減少せるに畜產狀況の部に於ける產牛數增加を示せるは異樣の感あれとも之れ個人有種牡牛の增加せると七塚原種畜牧場及隣接他郡便宜の場所にて種付せしものに仍る

## 地主會

地主小作人間の融和を圖り地方農事の發達を期するの目的を以て明治四十一年郡地主會を創設し各町村に支會を置き事業は地主會又は支會に於て各個に施設し得るの規定なれとも



未た豫定の活動を見る能はさるは甚た遺憾とする所なり然れとも明治四十一年に於て正條植の奬勵に方り各小作人に奬勵米給與を議決して其の奬勵に援助し又米穀檢査施行に當り小作米改良奬勵米給與を議決し其他俵米品評會の開設善良小作人の表彰等にして明治四十五年度の事業は小作人表彰講話會開催堆肥舍、產米改良等なり

小作米改良奬勵米給與議決額

檢査合格米に對するもの　（一俵に付）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一等 | 米 三升五合 | 四等 | 仝 二 升 |
| 二等 | 仝 三 升 | 五等 | 仝 一升五合 |
| 三等 | 仝 二升五合 | | |

不合格米に對しては俵裝改良奬勵米として一俵に付米五合

## 產業組合郡部會

郡下の產業組合及產業中央會々員を以て明治四十二年郡部會を組織して產業組合の創設已殼組合の發達を期せり而して郡部會の現況幷に購賣取扱の狀況を掲くれは左の如し

| 年度 | 事業種類 | 經費 | 購買取扱金額 |
|---|---|---|---|
| | 肥料 | 食鹽 | 農具 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治四十二年 | 視察指導、購買斡旋 | 一五、〇〇〇円 決算 | 四一八、〇〇〇円 | 三八三、〇〇〇円 | — |
| 仝 四十三年 | 仝仝 | 二八、六二八 | 三、六七六、〇〇〇 | — | 二八四、〇〇〇円 |
| 仝 四十四年 | 仝仝 | 一三三、五三〇 | 六、七六六、〇〇〇 | 四〇七、一一〇 | 三七六、〇〇〇 |
| 仝 四十五年 | 視察指導 | 二六八、四八〇 | | | |



# 郡内里程表

| | 甲山 | 三川 | 東 | 廣定 | 大見 | 津久志 | 小國 | 津名 | 上山 | 吉川 | 神田 | 西大田 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲山 | | | | | | | | | | | | |
| 三川 | 二、一〇 | | | | | | | | | | | |
| 東 | 二、一〇 | 一、二〇 | | | | | | | | | | |
| 廣定 | 四、〇〇 | 三、〇五 | 一、一六 | | | | | | | | | |
| 大見 | 三、〇〇 | 四、〇〇 | 二、二一 | 二、一〇 | | | | | | | | |
| 津久志 | 三、一五 | 五、二五 | 四、一七 | 五、〇四 | 二、〇六 | | | | | | | |
| 小國 | 四、一五 | 六、二五 | 六、〇〇 | 五、一六 | 三、〇三 | 一、〇[illegible] | | | | | | |
| 津名 | 七、一〇 | 八、二〇 | 六、三一 | 六、二〇 | 四、一〇 | 二、二五 | 一、二五 | | | | | |
| 上山 | 七、〇〇 | 九、一〇 | 八、〇三 | 八、一四 | 六、〇四 | 三、二一 | 二、二一 | 一、三〇 | | | | |
| 吉川 | 六、〇〇 | 八、一〇 | 七、二四 | 八、二一 | 四、二四 | 二、二四 | 一、二四 | 二、〇二 | 一、一八 | | | |
| 神田 | 四、〇四 | 六、一四 | 五、三〇 | 七、三〇 | 四、三三 | 二、一六 | 三、〇〇 | 五、二五 | 四、二八 | 三、〇八 | | |
| 西大田 | 二、一〇 | 四、二〇 | 四、〇〇 | 四、二八 | 二、二八 | 一、〇五 | 二、〇五 | 三、三〇 | 四、二六 | 四、〇〇 | 一、三〇 | |
| 東大田 | 〇、二八 | 三、〇三 | 二、一八 | 四、〇八 | 二、二〇 | 二、三三 | 三、三三 | 六、三〇 | 六、〇八 | 五、〇八 | 三、二三 | 一、二八 |

大正元年十二月二十日印刷
大正元年十二月二十三日發行

發行所　廣島縣世羅郡役所

印刷者　廣島市水主町六十七番邸　藤浦大順

印刷所　廣島市水主町二十七番邸　廣島印刷合資會社

270
688

終